

植物防疫情報第3号

平成27年7月9日
岡山県病害虫防除所
岡山県植物防疫協会

農作物の病害虫防除を徹底してください！

気象庁は7月6日に西日本の長雨と日照不足に関する全般気象情報第2号を発表し、農作物の管理等への注意を喚起しています。本県でも6月以降、平年より気温が低く、日照が少ない傾向が続いています。これらの気象条件は、イネいもち病などの発病を助長する条件となります。圃場をよく観察し、晴間を利用して防除を徹底してください。特に注意が必要な病害虫は、次のとおりです。

【イネいもち病】

これまでのところ岡山県内のいもち病の発生量は多くありませんが、7月2～3日の病害虫防除所の巡回調査によると、いもち病の発生圃場率は県下全域では5.6%と平年(7.3%)よりやや低いものの、県南部でみると8.3%と平年(5.0%)よりやや高まっています。今後も長雨、日照不足が続けば急増する可能性があります。圃場をよく観察し、葉いもちを確認した場合は速やかに防除を行ってください。

【イネ紋枯病】

イネ紋枯病は、昨年9月5日に注意報を発表しています。昨年多発した圃場では、伝染源が多いと予想され、本年も発生が懸念されます。

【イネもみ枯細菌病】

イネもみ枯細菌病は、出穂期前後に最低気温22℃以上で降雨頻度が高い場合に発生が多くなります。本田防除のタイミングとして、液剤や粉剤で防除する場合は出穂*中に散布し、粒剤で防除する場合は出穂前に散布してください。*出穂：止葉葉鞘の先端部分から穂先がわずかでも抽出した状態

【モモせん孔細菌病】

モモせん孔細菌病は、本年6月9日に植物防疫情報第1号を発表し、早期防除の徹底を呼びかけています。なお、来年に向けて伝染源を低下させるために、収穫後の秋期防除の徹底が有効です。

【ブドウべと病】

ブドウべと病は、本年7月2日に植物防疫情報第2号を発表し、防除の徹底を呼びかけています。

【野菜類の灰色かび病、べと病等】

野菜類の灰色かび病、べと病等の発生が懸念されます。圃場をよく観察し、早期防除を徹底してください。

【トビイロウンカ】

一昨年に多発した海外飛来性のトビイロウンカは、高湿度条件で増殖しやすいので、下記のホームページ等で病害虫防除所の飛来情報を確認するとともに、圃場を十分に観察して早期防除に努めてください。

- 防除にあたり、病害は発病後の防除は効果が劣るため、感染・発病前の予防防除を徹底してください。
- 農薬の使用にあたっては、収穫前日数を考慮して農薬使用基準を遵守し、安全・適正に使用するとともに周辺農作物等への農薬飛散防止対策をとってください。

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。アドレスは、

http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec_sec1=239 です。